



学年の心を一つに 東町リモートミュージックビデオ制作

校長 羽田野庸史

先月、行われました体育学習発表会には、多くの保護者の方にご参観いただき、ありがとうございました。どの学年もリハーサルでとても気持ちが盛り上がっていただけたのに、雨で当初の予定日に実施できなかったことによるモチベーションの低下を心配しましたが、児童は、保護者の方の前ということもあり、練習の時にはなかなか見られなかったこぼれるような笑顔の演技を見せてくれました。

さて、今月は、運動会同様、コロナ禍で中止となった音楽会に変わるものとして、「東町リモートミュージックビデオ制作」に取り組みます。音楽は、コロナ禍でいちばん影響の大きかった授業です。音楽の活動の中心は、歌唱、楽器演奏ですが、どちらも飛沫の可能性が高く、感染リスクを伴います。歌唱も楽器演奏もできず、鑑賞しかできない音楽の授業となると、それは現実離れしたものと言わざるを得ませんでした。それでも、マスクを着用して、体育館でソーシャルディスタンスをとって大きく輪になり、リズム打ちを中心とした授業から始め、徐々に音楽室で時間を限定して歌唱や楽器演奏も取り入れて音楽の授業を行えるようになりました。しかし、それでも他教科に比べると、制約の大きい教科であることに違いはありません。したがって、一昨年行った音楽会のように、一つの合唱曲や合奏曲をつくり上げていくために、学年全体が体育館に集まって、長い時間練習したり、発表を聞く場の密を避けたりすることは、難しいのが現状です。

そこで、出てきたのが、「東町リモートミュージックビデオ制作」です。ステイホーム期間中に、音楽家など複数の方が、それぞれの家庭等で一つの楽曲を歌ったり、あるいは演奏したりして動画投稿サイトに投稿しているのをご覧になった方もいらっしゃるかと思います。あれと似たものを学校で行おうというものです。どの学年も合唱曲一曲（1年：にじ、2年：おはようのエール、3年：世界がひとつになるまで、4年：負けないで、5年：世界に一つだけの花、6年：青いしゃぼん玉）に取り組みます。この学年一曲の合唱曲を仕上げるために、「歌声をレコーディングする日」と「歌っている様子を撮影する日」とがあります。当然、その日までに練習を積み重ね、当日は、ベストの状態での臨む必要があります。歌声のレコーディングは、5・6年が11日（水）、2・4年が12日（木）、1・3年が13日（金）に行います。この日は、音楽室で各クラス7、8名ずつのグループになって順番に自分の学年の合唱曲を録音していきます。例えば、11日（水）ですと、午前8時50分から、音楽室で6年1組のAグループ、Bグループ、Cグループが順番に、続いて午前9時40分から、6年2組のAグループ、Bグループ、Cグループが録音に入り、5年生へと続くといった具合です。

そして、16日（月）は、午前9時から1年1組、続いて1年2組、1年3組、…、6年1組、6年2組と体育館でクラスごとに児童が歌っている様子を撮影していきます。そして、業者に依頼してこれらの歌声と映像を合わせて、学年で一つの作品（合唱曲）に仕上げます。出来上がった作品は、SNS上で本校の保護者にのみ公開する予定です。

これまでの音楽会ですと、その場にいる学年の友達と心を一つにして、一つの曲をつくり上げていきましたが、今回のリモートミュージックビデオでは、その場にはいない学年の友達のことを思い、考えながら、歌を歌わなければなりません。そこにいる7、8人の友達と調和のとれた歌声で歌えても、他のグループと合わせたら、バランスが崩れるということも起こり得ます。それだけ一つの曲を仕上げるのが音楽会よりも難しいと言えるかもしれません。リモートミュージックビデオ制作を通して、学年の児童が心を一つにして、一つの作品をつくり上げることで、音楽会にも勝るとも劣らない経験をさせたいと考えています。

11月 行事予定

日	曜	行事等	放課後遊び
1	日		
2	月		—
3	火	文化の日	
4	水	親子読書週間開始 4時間授業	—
5	木		3年
6	金		4年
7	土	土曜授業日 日本文化の時間	—
8	日	親子読書週間終了	
9	月		—
10	火		6年
11	水	レコーディング日(5・6年)	—
12	木	児童集会(リモート) レコーディング日(2・4年) 歯科検診(1年、3-1、4-2)	4年
13	金	レコーディング日(1・3年) 通知表配布	5年
14	土	開校記念日	
15	日		
16	月	ミュージックビデオ撮影日(全学年) 委員会活動	—
17	火		6年
18	水		—
19	木	就学時健診 4時間授業(13:20完全下校)	—
20	金	避難訓練	5年
21	土		
22	日		
23	月	勤労感謝の日	
24	火		3年
25	水		—
26	木		5年
27	金		6年
28	土	土曜授業日 日本文化の時間	—
29	日		
30	月	人権スローガン発表(朝会時) クラブ活動	—

お知らせ

通知表「ひがしまちの子」の配布

今年度は、年に2回、通知表を配布することとしました。1回目の配布日は、11月13日(金)です。クリアファイルに入れて持ち帰りますので、ご家庭で大切に保管してください。

*リモートミュージックビデオ制作に

おける録画・撮影について*

今年度は、コロナ禍で例年通りの音楽会ができないため、下記の日程で、リモートミュージックビデオ制作を行い、児童の声を繋ぎ、一つの合唱にします。

◎レコーディング日：11日(水)…5・6年
12日(木)…2・4年
13日(金)…1・3年

◎撮影日：16日(月)…全学年

撮り直しができませんので、当日は、欠席や遅刻等ないようにお願いいたします。

避難訓練

今月の避難訓練は、20日(金)にJアラートが発動された場合の避難行動について学習します。学校以外の場所にいるときにJアラートが発動された場合の避難行動についてもご家庭で話し合ってみてください。

人権の日

今月の人権の日は、30日(月)です。30日(月)の給食は、イギリス料理のフィッシュ&チップスです。

生活指導

11月の生活目標 「力を合わせてやりぬこう」

生活指導主任 高木 順一

今月は、東町リモートミュージックビデオ制作があります。学年の児童が、心を一つにして、一つの曲をつくり上げる経験を通して、力を合わせてやりぬくことの大切さを指導していきます。

また、寒くなってきますので、あらためて適切なマスクの着用、換気、密の回避と合わせて、寒暖の差に応じた衣服の調節を指導していきます。

《学年の窓》

3年生について

3年1組担任 高橋 基樹

3年2組担任 戸伏 虹太

3年生は、9月からタブレットを使用したタイピングの練習やプログラミングなどの学習を行っています。「今日は、タブレットを使います。」と児童に伝えると、「やったー！」ととてもうれしそうな反応をしており、学習にも集中して取り組んでいます。

3回目のプログラミングの学習では、2年生の時に使った「Blockly」よりさらにプログラミングの自由度が高い「scratch」というアプリを用いて、自分の思い通りにキャラクターを動かしたり、好きなタイミングで音楽を流したりするなどの基本的なプログラミングを行いました。「思い通りに動かない場合はどのようにプログラムを変えていけばよいのか」と考え、問題解決を行うことができました。10月には、タブレットが全児童分導入されたので、これからさらなる活用を図っていきます。



「才能」って、何だろう？

音楽専科 畠中 圭一

大人が、子供に対して「君は才能があるね！」と褒める場面をよく目にします。「才能がある」とは、どういった状態を指すのでしょうか。

子供は、往々にして「才能」を「物事に長ける資質・能力がはじめから備わっており、他人よりも少ない努力の量で達成できる力」と思い込みがちです。たしかにそれは才能の一つの側面であるかもしれませんが、最も重要な面は違ったところにあると私は感じます。他人より時間はかかってもコツコツと努力をして確実に成長を遂げてきた人間は、大きな壁にぶつかったとき、その乗り越え方をこれまでに学んできているので、逃げずに立ち向かい、最終的に乗り越えることができることが多いです。

私の同級生に、子供の頃、「ピアノの天才」だと言われ、地元のコンクールでは常に金賞を取り、全国でもトップレベルの成績を収めていた親友がいます。海外留学への道も決まっており、順調にいけばピアニストになる人生であると誰もが疑いませんでした。しかし、彼は高校に進学すると、「自分の限界を悟った」と音楽への興味を失い、現在は全くピアノを弾かない生活を送っています。そんな彼を見て、やはり「才能」とは一体何だろうと考えさせられました。

話は変わりますが、数年前、東町小の6年生に行事のための合奏指導をしていた時のことでした。一人の児童が人気の高い小太鼓を希望し、オーディションに向けて練習に取り組むこととなりました。彼は決して器用なタイプではなく、他の希望者に比べて楽譜を読んだり安定したリズムで演奏できたりするようになるまでの時間が多くかかりました。しかし、授業中の真剣な取り組みはもちろん、休み時間も使って毎日、音楽室へ練習に通いつめ、結果的にオーディションで小太鼓の担当を勝ち取り、本番の演奏でも堂々と全体の合奏を支えるまでに成長しました。彼を見て、やはり才能とは「物事への情熱を継続させることのできる力」とであると、私自身再確認することができました。

東町小の子供たちが大人になって社会に出た時、周りの人よりも結果が出ず、「自分には才能がないんじゃないか」と思い悩むことがあるかもしれません。しかし、すぐに結果が出せなくても、情熱を絶やさず努力を続け、少しずつでも歩みを続けていけば、いつの日か周りの人よりも成長しているということがよくあります。そのように「情熱を絶やさず、努力を継続できる」人間に成長してほしいという思いで、日々音楽の指導に当たっています。

開校107周年を迎えて

副校長 近藤 夏彦

11月14日(土)は、東町小学校の開校記念日です。今年度で開校107周年を迎えます。大正2年に「東町尋常小学校」として開校してから今日までの107年の間には、戦火による校舎の全焼や、統廃合の話が出るほどの児童数の減少など、いくつもの危機的状況がありました。しかし、こうした危機的状況を乗り越え、大正・昭和・平成時代を歩みながら良き伝統を築き上げ、そして今、令和の時代を新たに迎えました。

これからの時代は、予測困難な時代であると言われていています。今後、予想もできないくらい大きく変化していく時代を生きて抜いていく子供たちの将来のために、学校教育にも様々な変化が求められています。その一つがICT教育です。これからますます発展していく情報化社会に対応するために、子供たちがICT機器を自由に操作し、情報を取集し、発信していく力を身に付けることをねらいとした教育活動の充実が求められています。港区では、10月の下旬に児童一人に一台のタブレットが配備され、本校でも、ますますこうしたICT機器を活用した教育活動の充実を図っていきます。また、学校の在り方自体に対する考え方も変えていく必要があります。今後の時代の変化に伴い、我々が住むこの身近な地域社会もどんどん変化していくことでしょう。そうした中で、学校が行うべき子供への教育というものも、学校という小さな場だけで行うのではなく、変化していく地域社会の中の一つの存在なのだ、ということ意識する必要が出てきます。そのために、地域社会と連携・協働しながら子供たちを育てていく体制を今まで以上にしっかりと築き上げていくことが大切です。

しかし、これから社会や時代がどんなに大きく変わろうと、これまでの東町小学校の長い歴史と伝統を受け継ぎながら、子供たちが生き生きと活動し、心豊かに成長することを願う気持ちには変わりはありません。これからも東町小学校をますます発展させ、地域から愛され、より一層活気のある学校にしていくことが、我々の務めであることを胸に刻み、今後も全力を尽くしてまいります。

図工室から

図工専科 鈴木 友里恵

図工の授業が6月からスタートし、約5カ月が経ちました。現在、各学年の児童は、音楽のリモートミュージックビデオ制作に合わせて、“音楽”をテーマにした題材に取り組んでいます。また、図工の時間以外でも、図工室に遊びに来て他学年の作品を観たり、授業の準備を手伝ってくれたりする子供たちがいます。いつも素直で明るい子供たちとともに、和やかに楽しく図工ができています。各学年の児童が制作する写真をご紹介します♪



～コロナ禍による図工室の変革～

6月より図工室の机に感染症対策のパーテーションを設置しました。これにより児童一人一人が自分の世界に没頭できる空間が生まれ、児童の集中力も高まりました。また、鑑賞や振り返りでは、このパーテーションに児童の作品を貼り、立てかけることで、見方も変わり、お互いの作品を比較しながら鑑賞することができるようになりました。

～自分らしさを大切にする図工の時間～

図工では、児童の発達段階に沿って、鋸や金槌、カッター、アクリル絵の具などの道具や画材、また、木材、石、砂などの自然物、プラスチック、発泡スチロール、布などの人工物など、様々な材料と出会います。

そして、自分の感じ方・考え方を知り、新しい知識や事象、友達や周りからの影響を受け、さらに自分らしさを深めていきます。この自分らしさは、変化の激しい今を生きていく大切な力になると考えます。

児童が主体的・対話的に自分らしさを大切にできる時間を図工でつくっていきたいと思います。